

CONTENTS

2面

日本成人病
(生活習慣病)学会
小田原雅人
大会長に聞く



3面

「健康日本21」策定の
河原和夫教授
生活習慣病対策で
提言



3面 日本病態栄養学会年次学術集会 本田佳子大会長に聞く

食の欧米化、歩かない生活を背景とした生活習慣病への対策で医療と連携する形で予防医療に取り組む保健師の役割が増大している。野口緑担当部長率いる兵庫県尼崎市の取り組みは群を抜いた成果を出している。野口氏の情熱に裏打ちされたさまざまな工夫が隠されていた。

(大家俊夫)

Special Interview

メタボ撲滅委実行委員
兵庫県尼崎市市民協働局
ヘルスアップ戦略担当部長

野口 緑

保健師の役割増 尼崎モデルで心血管病減

「市民の健康向上が生きがい」と語る野口氏=尼崎市内
(鎌田健志カメラマン撮影)



改善の成果全国へ

労働者の町で知られる尼崎市の健康データは決していいものではなかった。それが、野口氏が中心となって保健指導すると、がらりと様相が変わった。特定健診保健指導が始まった2008(平成20)年の前の5年間と後の5年間で虚血性心疾患の死亡率をみると、人口10万人に対して尼崎市の男性、女性とも約25%の大幅減少を示し、全国平均を超えていた数値がいずれも下回る結果となった。脳梗塞の死亡率も同様の傾向が見られた。

野口氏は「住民の方に自分の健康状態を知ってもらうことが一番大切。だから、健診データは取りに来な

いと渡さない。取りに来ると、指導対象者ではない人にもきっちり保健指導をするようにしました」。

市独自の健診血管チャート図も用意した。健診データの内臓脂肪値、腹囲、体格指数(BMI)を下欄に示し、それが悪化していくと最後は人工透析、糖尿病合併症による下肢切断、脳卒中、心筋梗塞に至るといった流れを明示。「この図は自分がどの位置にいるかが一目瞭然で分かり、将来のリスクを知ってもらう上で効果的です」

詳しいデータを取るために、通常の健診にはないメニューも。高リスク対象らには、糖負荷試験に頸部エコー、内臓脂肪を測定する検査もパナソニックや花王と提携して導入。

さらにカラダにイイコトしてポイントのため商品などと交換できる制度も2015年に始め、市民の健康への意欲を高めている。

「住民の方が10人いたら、10通りの生活があり、生活習慣がある。それに触れさせていただくのは私の生きがい。住民が健康状態を学び、改善に向けて動いてくれると何にもま

のぐち・みどり 1986年尼崎市役所入所。市民協働局課長などを経て2015年、同部長(ヘルスアップ戦略担当部長)に就任。日本肥満学会理事。大阪大学大学院公衆衛生学招聘准教授。著書に『脂肪細胞のひみつとつきあい方』(メディカルトリビューン、共著)など。

してうれしいですね」。全国に名を知られた「カリスマ保健師」は多忙な管理職になってもなお、その視線は一人ひとりの住民に向けられている。

1月と5月に尼崎市制100周年フォーラム

尼崎市市制100周年にあたる2016年、その記念事業として1月28日(木)、同市内で「ヘルスアップ尼崎戦略事業フォーラム」と「健康・未来・経営を考えるフォーラム」が開催。タニタ食堂の秘話と健康経営などが紹介される。先着200人。

5月8日(日)には同市内で「100周年未来いまカラダシンポ」と「尼崎市減塩サミット2016」が予定される。いずれも問い合わせは☎06・6375・5639へ。